

オープン・フォーラム

一般社団法人 京都府建設業協会広報誌

建設労働者確保育成号



【特集】

施工管理者が語る建設業の魅力 土木編
工事の経験積み重ねて得る
自信、若者への伝承が課題

(コーディネーター) 岡野真之氏 (岡野組)
 麻田徹氏 (前建) 梅原功氏 (青松建設)
 梶内寛幸氏 (玉井建設) 藤原大輔氏 (長村組)

緊急育成支援事業に初の女性限定コース
様々な分野で活躍めざす6人
が旅立つ

積極的な取り組み姿勢が男性に刺激、重機運転は女性に適性

ロボットで荷役作業の労働負担を軽減
建設現場などで威力を発揮
するAWN

装着体験記 あめりか屋 山本英夫氏
 水野建設 水野祥司氏

新入・若手社員フォローアップ研修
若手には明確な役割を与え
やる気持たせ離職を回避

わたしたち建設人/田中工務店 (舞鶴)
 古田美知留さん、上方奈々さん

われら建設人/水野建設 (京都)
 新葉貴司さん、上西幹由さん

建物に命を吹き込み最後まで見守るのが 建設業の使命



(一社)京都府建設業協会
副会長 小嶋 学

(株)ミラノ工務店代表取締役社長

弊社の社名の由来はイタリア北部の商工業都市ミラノに由来しています。命名は後に京都工芸繊維大学学長などを務められた建築家の大倉三郎先生です。ミラノには大聖堂など壮大な歴史的建造物が残されています。まさに芸術のメッカといえるでしょう。「歴史に残るような建物を造りたい」という思いがミラノの社名に込められているのです。

弊社は昭和2年創業以来、この京都に根付いて建築工事を行ってきました。当時、洋館の近代的建築はありましたが、まだまだ木造が多かった時代です。その中でいち早く近代建築の建造を目指して活動を始めました。現在、携わる事業は一般建築から寺社仏閣、歴史的建造物に至るまで、実に多様です。

ここ京都で育ってきた弊社は、この京都で仕事をするのが使命であると考えています。京都の町が未来の世界の中で、輝く京都であり続けるために、建設の仕事をしているのだ、という思いが募っています。

京都の町で仕事をするからには企業も町の一員でなければなりません。ですから、自然災害で建物に不具合が出た場合には、いついかなる時でも、住民の皆さまのもとにいち早くメンテナンスに駆けつけることがで

きる態勢を整えています。工事にあったとしても施主さまはもちろん、近隣の皆さまにも決して迷惑はかけないという、ていねいな仕事を心がけてきました。

「工務店」という名称を変えるつもりはありません。私どもは請負という商品売っている、つまり人材を売る店であることにこだわり続けているからです。

建設業におけるやりがいは、生涯で一番の大きな買物となる建物の建設を任せていただき、建物とともに歴史を刻むことができるということです。

創業の祖父が建てた建物が、3代目の私の代に今年解体工事が進められています。建物には命が宿っています。メンテを重ね、建物の命を最後まで見届けるのが私どもの役割でないか、また、その土地に建物を建て新しい時代に踏み出し、歴史を共有するのが建設の仕事であると痛感しています。

建設産業の問題について触れましょう。国は働き方改革を打ち出しています。発注者の方も無理を言うことができないという意識が定着していけば、建設産業で現場施工をしている職人も世間並みに週2日休む

ことができるようになり、そうなればこの業界を志す若い人も増えてくるのではないかと期待しています。

そのためには発注の平準化、工期の適正化も視野に入れた確認申請も考えるべきではないでしょうか。労働時間の問題は国土交通省と厚生労働省にまたがりますので、両省が連絡を密にとり、産業全体の育成を考えていただきたいと思います。

働き方改革が基本的にこうした方向で動いていくとなると、現場で働く人の処遇はどうなるのか。稼働日数が減れば手取りの収入は減ってきます。そうなると、どうしても単価を上げることには話が行かざるを得ないでしょう。

一方で働き方改革という政府の方針は、長時間労働の削減が基礎にあるわけですが、その根底には生産性を上げることがなければ、労働時間短縮は机上の空論に終わってしまいます。生産性を上げ長時間労働を減らしていくことを両輪で議論していきたいと思っています。

建設の仕事は地図に残る仕事といわれます。社会的に重要な仕事であることを、私たちとしても国民に向かってもっと主張していかなければならないと感じています。

建設人登場

古田美知留さん、上方奈々さん（田中工務店）

舞鶴の主力企業のひとつ田中工務店。畿北エリアのランドマークや鉄道インフラ整備に地元の期待は高い。同社の道路工事の高い品質は定評があるが、それを支えるのは、古田美知留さんと上方奈々さん。古田さんは入社21年のベテラン。その仕事への向き合い方は厳しい。上方さんは古田さんの下で成長を続けている。



イラスト：キョロ丞

5

特集

施工管理者が語る建設業の魅力 土木編

工事の経験を積み重ねて得る自信、若者への伝承が課題

（コーディネーター）岡野真之氏（岡野組）、麻田徹氏（前建）、梅原功氏（青松建設）、榎内寛幸氏（玉井建設）、藤原大輔氏（長村組）

8

緊急育成支援事業に初の女性限定コース

様々な分野で活躍めざす6人が旅立つ

積極的な取り組み姿勢が男性に刺激、重機運転は女性に適性

11

ロボットで荷役作業の労働負担を軽減

建設現場などで威力を発揮するAWN

（装着体験記）あめりか屋山本英夫社長、水野建設水野祥司専務取締役

14

新入・若手社員フォローアップ研修

若手には明確な役割を与えやる気をもたせ 離職を回避

座学・グループ討議一体型で成長の気づき与える

16

わたしたち建設人

交通安全守る道路材料の適切配合 人と人とのつながりが向上心を生む

—（株）田中工務店（舞鶴） 古田美知留さん 上方奈々さん

18

われら建設人

街を歩いて時代のテイストを知る 感性を高めて顧客の要望を実現

—水野建設（株）（京都）新葉貴司さん 上西幹由さん

表2

巻頭言

建物に命を吹き込み最後まで見守るのが建設業の使命

（一社）京都府建設業協会 副会長 小崎 学

2

京建協News

20

建設コラム 柳亭金車の現場のちょっといい話 その3

生の現場見学—安全に完結なし

21

わたしのいきつけのお店

西洋割烹たかはし 推薦人 あめりか屋山本英夫社長

表4

編集後記

近畿整備局と意見交換会、地元企業の受注拡大要望

——公共事業費の確保を要請、整備局はインフラ整備に協力求める



小林 稔 企画部長
(近畿地整)

京建協と近畿地方整備局は昨年9月28日、京都市下京区のホテルグランヴィア京都で「平成28年度意見交換会」を開きました。冒頭挨拶した近畿整備局小林稔企画部長は、「地域の安全・安心や経済・社会活動を支えるインフラ整備はまだまだ進めていかなければならない」と述べ、京建協にインフラ整備への協力を要請しました。

請いました。

挨拶に立った

岡野益巳会長

は、「地域建設

業の企業体力は



京建協と近畿地方整備局との意見交換会。挨拶する岡野会長

限界にきており、早急な補正予算の成立と地域事情に応じた公平な分配をお願いしたい」と述べました。

続いて、意見交換の場に移り、各

副会長や理事が要望を述べました。

小崎学副会長は安定的で持続的な公

共事業費の確保を訴えたのに対し、

近畿整備局は、必要な公共事業費の

確保に努め、平成29年度の国交省の

当初予算案は1・15倍の要求を行っ

ているとしました。

玉井康義副会長が地域建設企業の

受注機会の拡大のため適切な発注

ロットの要望をしたのに対し、近畿

整備局は可能な限り地元企業の受注

をお願いしていること、総合評価で

企業チャレンジ型の新規参入企業の

導入を行っている」と答えました。

山内基義副会長の発注・施工時期の平準化と適正な工期設定の要望に對しては、適切な工期設定に努めたいと述べ、現場と設計図書乖離については実態把握をしているところとしました。

吉村良一土木委員長は最低制限価格等の95%以上の引上げ、二封筒事後審査型入札の廃止などの入札契約制度の改善を求めました。近畿整備局は、要望があったことを本省に伝えると答えるにとどめました。

中川雅勝建築委員長が設計や積算で適切な設計変更を求めたのに対し、近畿整備局は、設計変更のガイドラインは平成27年に改正しているので周知を図り、適切な設計変更にも取り組みたいとしました。

絹川雅則労務経営委員長の担い手の確保・育成策の促進のための要望に對して、工期は週休2日を見込んで設定していること、必要な書類の明確化を図り、書類削減に取り組んでいると答えました。

三輪泰之総務広報委員長は、若年労働者の入職促進を図るための広報活動を活発に行うことを要望しました。近畿整備局は広報が重要なことは認識しているとし、ポータルサイトを活用しているとしました。

このほか、i-Constructionの小規

模現場への活用について、近畿整備局は、ICTを活用した工事は16年度から土工を対象に実施しているが、対応できる技術者や技能労働者の育成などを目的として受注者向けの実習や、発注者（自治体）向け講習会を開いており、直轄工事では現地講習会について検討中としました。最後に村井信夫副会長が、本日提案した課題が、少しでも希望が見えるように改善に向けて検討いただきたい、と挨拶して会議を終えました。

近畿地区ブロック会議開く 6項目の要望を提出

——岡野会長が関西圏の工事量減少への対応を要請

全国建設業協会（全建、近藤晴貞会長）の近畿2府5県の地方建設業協会と国土交通省、近畿地方整備局が意見を交換する平成28年度「近畿地区ブロック会議」が、昨年10月12日、下京区のホテルグランヴィア京都で開かれました。

冒頭挨拶したのは近畿建設業団体協議会の当番幹事となっている岡野益巳京建協会長。「近畿ブロックの建設業界は首都圏に比べ工事量が減少している」と訴え、このままでは「地域の建設企業は経営の見通しも



近畿建設業団体協議会と国土交通省・近畿地方整備局との意見交換会

たらず、担い手の確保・育成もままならないのが実態だ」と訴えました。

国土交通省の海堀安喜建設設流通政策審議官は、建設産業の課題として、①入札契約制度改善、②担い手確保、③生産性向上の3つをあげ、官民が問題意識を共有して議論し、双方が解決に向けて取り組みたいと述べました。続いて、池田豊人近畿地方整備局長は、お互いがパートナーシップを深め生産性向上に取り組んでいこうと述べました。

意見交換の場では以下の6つの課題について議論を進めました。

- ① 社会資本整備の計画的推進のための安定的な公共事業予算の確保と災害に強い国土づくり
- ② 担い手の確保・育成
- ③ 入札契約制度の改善
- ④ 総合評価方式（二封筒事後審査型入札の廃止など）
- ⑤ i-Constructionの推進

⑥ 品確法の指針の普及の徹底

このうち、担い手確保・育成策について、近畿整備局は、「国交省は公共工事設計労務単価を4年連続で引き上げており、この引上げ分が現場の職人の手元に入ること、市場価格、実勢価格が上がり、一層の労務単価アップにつながる」とし、労働時間の短縮策については「週休2日のモデル工事を増やしている。受注者の意見・課題をくみ取って課題克服に努めたい。工期設定の見直しや書類の削減、重複の廃止などの簡素化にも取り組んでいく」としました。

入札制度については、二封筒事後審査型入札は不正防止の観点から採用しているもので、負担軽減策を図りたいと答えました。i-Constructionについては今後、実施件数を増やしていくとし、経費については共通仮設費で計上しているとしました。

民間工事の指針については、当面は指針の定着を図り、今後、運用状況や現場の活用状況を踏まえてあり方を考えていきたいとしました。



海堀安喜建設設流通政策審議官（国交省）



池田豊人局長（近畿地整）

小崎京建協副会長が「私たちは自らの役割の重要性を認識して問題の解決に新しい発想で取り組みたい」と閉会の辞を述べました。

3

小学生建築デザイン展開く 宮津高校主催、京建協協賛

——みんなが笑顔になれる家を
テーマに小学生が参加

京都府立宮津高等学校（三好正志校長）は、昨年10月23日、「第18回小学生建築デザイン展」を同校で開催、建築デザインコンテスト入賞者の表彰式を行いました。表彰式には宮津建設業協会岸部照会長などが来賓として出席しました。



入賞者の絵画の展示風景（宮津高校）



小学生建築デザイン展の表彰式

このコンテストは平成11年から始められ、第2回から京建協宮津支部、第3回から京建協が協賛し後援しています。今回のテーマは「あったらいいな みんなが笑顔になれる家」。最優秀賞、優秀賞と準優秀賞は各6人、審査員特別賞は18人でした。最優秀賞の受賞作品については本誌裏表紙をご覧ください。受賞作品は宮津高校の校内に展示され、市民や生徒に公開されました。

4

現場代理人講習会を開催 コスト管理手法を学ぶ

——技術者62人が参加、意識改革
による利益拡大策学ぶ

京建協は昨年11月17日、京都建設会館で会員企業の社員教育の一環として、現場代理人の「意識改革実践講座」を開催し、62人が参加しました。講習内容はコスト管理や現場管理能力の向上が目的で、中堅社員が



絹川雅則労務経営委員長

対象。継続学習制度のCPDSの取得を支援するための社員教育の一環です。



グループに分かれてコスト管理を学習

講師は日本コンサルタントグループ建設産業研究所の石原勝信第1研究室室長。

絹川雅則事務経営委員長が研修開始を前に

「現場こそ利益の源泉だ。どのように仕事に向き合うか、今日1日、学習に取り組んでほしい」と挨拶しました。

石原講師は、現場の利益は会社の利益にかかわってくることで、成果を上げられる技術者になることの重要性、工事は旧態依然で行うのではなく創意工夫し利益獲得に向け主体的に行動することなど、意識改革の重要性を強調し、原価管理の自己チェックや実行予算と協力会社との対応などを講義しました。

5

京都迎賓館の見学会開催 現代和風の神髄に触れる

——会員企業の技術者30人が参加、伝統技能の技に感嘆

昨年12月14日、京建協と京都府建築施工管理技士会（田中俊介会長）は、上京区の京都迎賓館の見学会を



京都迎賓館「夕映えの間」で記念撮影

開き、約30人が参加しました。会員企業職員にはCPD2単位が付与されました。

京建協の中川雅勝建築委員長は、「大きなものから小さなものまでつくる、

京都の伝統技能をつぶさに見学することができるとない機会」と挨拶。迎賓館の係員の案内で館内を見学しました。

京都迎賓館は「現代の和風建築」と「庭屋一如」がコンセプト。近畿地方整備局が工事を発注し、平成14年3月に着工し、17年2月に竣工しました。設計は日建設計、施工は大林・竹中・鹿島JVが担当。

見学会の最後に田中俊介会長が「貴重な建物をていねいな説明とともに見学することができ、大変に勉強になった。今後の業務の参考にしていきたい」と感謝の言葉を述べました。



中川雅勝建築委員長



田中俊介会長
(建築技士会)

6

新年賀交歓会を開く、 会員700人が参加

——門川京都市長が地元工事は地元企業受注に努力と挨拶

京都府建設産業団体連合会は1月10日、「平成29年新年賀交歓会」を下京区のリーガロイヤルホテル京都に来賓や会員約700人を集めて開きました。

石倉宏京都府建設産業団体連合会副会長が開会の言葉を述べた後、岡野会長が「京都府域の公共工事は大きく落ち込んでいる。中長期的に建設投資を見通すことができる安定的・持続的な公共事業費の確保が重要」と訴え、社会保険未加入問題や担い手三法の確実な実施に引き続き取り組んでいく、などと挨拶しました。交歓会には多数の来賓が来場され、



岡野益巳会長

祝辞を述べられました。池田豊人近畿地方整備局長は「国土強靱化を推進していく」、山田

啓二京都府知事（代理・山下晃正副知事）は「人手不足にはオール京都で取り組みたい」、門川大作京都市長は「インフラ整備には可能な限り地元企業に仕事をしていただく」などと、新年の抱負を述べられました。

伊吹文明衆議院議員が乾杯の音頭をとられ、会場は懇談の場となり、会員の皆さまは懇親を深め、野間秀行京都府建設産業団体連合会副会長が閉会の辞を述べられて盛況のうち



石倉宏副会長
(京都府建産連)



池田豊人局長
(近畿地整)



山下晃正京都市副知事



門川大作京都市長



伊吹文明衆議院議員



野間秀行副会長
(京都府建産連)

700人が参加した年賀交歓会の懇親風景

特集

施工管理者が語る建設業の魅力 土木編

工事の経験を積み重ねて得る自信、

若者への伝承が課題

苦勞が多い工事の進展、その苦勞のプロセスも含めて面白い――

若者の建設離れが言われて久しいが、やってみればこんなに面白い仕事はないと、のめり込んでしまった会員企業のベテラン4人の方々に、土木工事の魅力を語っていただきました。知識と経験のポケットを増やし、それが自信へとつながり、次々と難工事成し遂げた面々です。4人の方のお話には建設業の未来を考えるヒントが詰まっています。

達成感が最大の魅力

――今後の建設産業界を考えるうえで、皆さんはどんな経過でこの業界に入職してこられたのかについて、興味があります。その背景などをお聞かせください。



藤原 大輔さん
(長村組)

まずは機械メーカーに入社したのですが、どうも向いていないと

藤原 高校では機械・電気専攻で、



梅原 功さん
(青松建設)

庭的には建設業とは縁がなかったですね。高校では全く土木と

梅原 祖父が大工だった以外は、家

感じて1年くらいで辞めました。友人が建設業界におり、いきいきした目で、仕事の話をするものですか

ら、私もやってみないと、現在の会社には転職しました。がむしゃらにやって資格も取り、今日に至っています。



麻田 徹さん
(前建)

味を持ち、高校は工業土木科に進みました。測量を勉強して測

量、の会社に入ろうと福知山の職業訓練校にも通いました。就職の段になると、先生は測量よりものづくりができる建設の方が向いているのではないかと、ということが入社したわけです。ただ、建設業がどんなところであるかなどは、全く知識がありませんでした。私はものづくりが得意でなく、性格的にコツコツとつくることにはどうも向いていないようです。でも指揮をとるのは面白いです。

麻田 中学時代に測量士の仕事に興味を持ち、高校は工業土木科に進みました。測量を勉強して測



梅原 寛幸さん
(玉井建設)

人がおり、それで夏冬にアルバイトして、もの

づくりの面白さを体験しました。高校を卒業して建設会社に入ろうとしたのですが、友達をつくるために、大学が専門学校に行け、と親が言うので土木の専門学校に行き、卒業後、入職に至ったわけです。

――最初は建設会社とはどんなことをするかわかりませんでした。仕事を続けていくうちに、皆さんは仕事の面白さに目覚めたようです。その経験の中で印象に残ったこと、成長したと感じたような仕事はありますか。

梅原 何もないところに、道路や橋ができていくわけで、やっていてと

座談会出席者 (五十音順)

岡野	真之氏	(コーディネーター)	(株)岡野組専務取締役
麻田	徹氏	(株)前建	土木部工事部長
梅原	功氏	青松建設(株)常務取締役	
梅原	寛幸氏	玉井建設(株)工事部係長	
藤原	大輔氏	(株)長村組土木部課長補佐	

でも面白い。苦勞も多いですが、その苦勞のプロセスを含めて面白いわけです。入って2、3年目からですね、面白いと感じ始めたのは。現場に出ることは、訓練を積み重ねるということでもあるわけで、次はもっとうまくやれるだろう、と。今は積算作業の日々ですが、これもやっていてとても面白いです。

麻田 工事は何カ月もかかって完成するわけですから、竣工したときのやったーという感激、これが仕事のやりがいですね。悔しかったのは、河川工事で型枠ができてコンクリート打設の寸前に、豪雨で流されたことです。でもそれも今となっては、得難い経験だったと考えています。現在では細かい積算をしています。自然災害などのそうした経験を生かしていこうと考えるようになっていきます。

榎内 工事の段階ごとに写真を撮っていくのですが、自分が測量した位置に建造物ができていくのを見るのが魅力です。竣工して工事の過程を振り返ってみると、その反省が勉強になることが多く、次々と経験が生きていく仕事だと思います。

藤原 建設業で働く魅力は達成感に尽きると思います。入社2、3年して2番手で仕事をするようになり、

現場をほぼ任せられるようになり、竣工して達成感を味わい、その経験が土木にのめり込むきっかけでした。この達成感を味わうには現場にぐっと入り込まなければならぬわけで、自分が上の立場になった時も、後輩がその感動を味わえるようにしてやりたいという思いでやってきました。

—— 藤原さんには橋梁工事の銘板に自分の名前を載せてくれと直談判した武勇伝があるそうですね。

藤原 近畿地方整備局の橋梁下部の仕事で、私が監理技術者の下に入りました。地元調整などで工事が遅れましたが、工期は守らなければならず、必死でした。家には殆ど帰れず、土日もなかった。最終検査の前日の晩に舗装、当日の朝に片付けというギリギリの仕事でした。橋の銘板の記載の協議で、監理技術者の名前はありますが、私の名前がないことに気がつきました。それが悔しくて、監理技術者の名前の下に「現場代理人藤原大輔」と書いて、私の名前を載せてくれと、発注者の事務所に持って行ったら、爆笑されました。でも「わかった」と言ってくれて、特例で載せてくれました。私の必死の仕事ぶりが評価されたのでしょうか。所長表彰もいただきました。責任者は

熱い気持ちで取り組んだ時に評価され、達成感も味わえるのだという、とてもいい勉強になりました。

3年の壁、中堅の壁をどう乗り越えるか

—— 皆さんは、現在では若い人を導く立場にあります。今の若者にはこらえ性がない、いやそのような若者も導くのが指導者の役割という押し問答が繰り返されています。どのような思いで若い人に接しておられますか。

麻田 昔は若手の社員も結構いたのですが、現在は採用も困難になっていて、高齢化が進み、業界の将来に危機感を持っています。会社は南丹にありますので、若い人が京都市に出て行ってしまうということもあり、採用では苦戦しています。

—— 若手が少ないことで、どのような影響を感じておられますか。

麻田 まず、ITなどの情報に接する機会が少なくなることがありますね。パソコンも周辺に使い手がいないと、なかなか上達しないものです。そういった状況ですので、効率的な事務処理を勉強するため、役所の講習などにはなるべく参加して、提出書類の作成をどう効率化するかなどを勉強しています。

榎内 若い人が建設業界に入ってくるには、「働き方改革」といわれる労働時間と休日の問題の解決が必要です。私も雇われの身ですから、休日がほしい。仕事は仕事、プライベートはプライベートと割り切れることが理想です。そうなれば、建設業に若い人が戻ってくると思うのですが。高校や大学から入職してくる人に求めたいこともあります。それは、あいさつができること、ごめんなさい、と言えること。これに尽きますね。労働時間の問題に戻ると、労働時間は工期と密接に関係しています。工期は天候に左右されるので、納期の重圧に押しつぶされそうになります。納期をどうするかが、労働時間問題解決の大きな課題だと思います。

藤原 若い人と仕事をする、次の世代をどう教育していくか、というより、若い人がついてきてくれるのかということが、気がかりです。3年の壁、中堅の壁というものがあったて、中堅になって辞めるのは責任の重圧に押しつぶされるからです。だから、それに耐えうる知識と経験を持てれば、自信がついて、この壁を乗り越えていくことができるようになると思います。

—— 技は盗め、見て覚えろという時

代がありました、これはもう通用しないということですね。

藤原 そうですね。むしろ、コミュニケーションをとって若い者としやべり、一緒に現場をつくり上げていくことが必要だと思います。そうすると、若者も勉強するようになりまし、現場をどう納めるかなど、徐々に教えていくことができるようになります。これは会社全体でシステム化すべきことだと思います。そのシステムをいかにつくっていくかが、問われているのだと思います。

—— **梅原**さんは常務取締役ですが、経営の立場におられるのですが、跡を継いでいく人にはどのようなことを伝えているのですか。
梅原 今はもう若手を指導していま



左から麻田徹さん、榎内寛幸さん、岡野真之さん、藤原大輔さん、梅原功さん

せんが、もう少し若い時は、手取り足取り教えたつもりで、なんとか育てることができたと思っています。現在は積算業務をすることが多いのですが、これはソフトが殆どのことをアシストしてくれます。入札後、発注機関がその内容を発表しますので、その内容をすべて調べあげて、どこが違っているか調べるように指導しています。受注できないことには、いくら優秀な会社でも成り立ちませんから。

不安の解消は「段取り八分」

—— 最近では地域で土木の仕事をしていても、地元の人からあまり声を掛けられなくなったといわれますが、いかがですか。

麻田 確かにそういうことはありますね。以前は地元の南丹で仕事をしていたと、お茶を出してくれたり、ありがとうと声を掛けてくれたりがあったのですが、そういうことは少なくなりました。今ではあまり好感を持って迎え入れられていないと感じられるときもあります。こうしたところに京建協の出番があるのではないか、と思います。

—— **情報化施工などi-Construction**の取組みが進められていきますが、どのように感じておられますか。

榎内 やはり危機感を感じますね。建設業の進化に追いついていけるだろうか、と。長年、建設業に従事してきましたが、これらの問題に知識の蓄積があるのかどうか、と不安になります。労働時間の問題とも絡んでくるようにも思います。

藤原 現場では仕事に追われて休日が取れません。その原因は、工期に縛られているということ。予算と工期に縛られながら、会社は利益も出さなければならぬ。公共工事であれば工期を延ばして、それに見合う単価が実現すれば、休みも取れるようになります。発注の平準化も必要でしょう。

—— 現場はひとつとして同じものはありません。工事の責任者としてどのような姿勢で臨んでいるのでしょうか。

榎内 新しい現場を持つときは、いつも不安です。図面を見ると、不安とプレッシャーを感じますが、その不安も面白みでもあるわけです。対策は「段取り八分」です。準備が整っているか確認しながら、着手していくことを繰り返すようにしています。

—— 建設業を取り巻く環境は、人材難や建設関連予算の減少、地域とのコミュニケーションなど、さまざま

に変化しています。建設業の将来とからめてどのように考えておられますか。

梅原 建設業はなくてはならない産業ではあるのですが、先細りの産業になってしまいました。これからの建設企業は、自社が得意とする工事を伸ばしていく努力が必要ではないかと考えています。例えば、下水工事や河川工事など。現在、メンテナンスに取り組みもうとしている企業があつて、こうした企業がこれから増えるように思います。

座談会を終えて



岡野真之さん
(岡野組)

皆さんのお話を聞いて大変に勉強になりました。企業人、業界人としてどんな取組みをしなければよいのか、ということに、多くのヒントが得られたと思います。業界の最大の問題は若手人材不足ですが、大切なことは、情報を共有してベクトルを合わせて進むことだと思います。ジョイントベンチャーでは現場で各社間のコミュニケーションがあると思いますが、企業単位ではそうはなっていないでしょう。京建協などの場を活用して、情報の共有と施策を進め、建設人が希望を持てる取組みをしていきたいと思っています。



広大な敷地に各種の建設機械が並ぶ東関東教習センター

緊急育成支援事業に初の女性限定コース

様々な分野で活躍めざす

6人が旅立つ

積極的な取組み姿勢が男性に刺激、重機運転は女性に適性

建設技能労働者の確保は待ったなしの課題です。日建連は2025年には128万人の技能労働者が不足するとして、女性技能労働者20万人の入職を期待し、「けんせつ小町委員会」をつくり、女性活躍を進めています。厚生労働省は2015年10月から建設業への新規入職を促進するため「建設労働者緊急育成支援事業」を開始しています。2016年には初めての試みとして女性だけの限定コースを設けて実施しました。その内容を紹介します。

少ない女性技能労働者割合

建設業の現場で働く女性技能労働者数は9万人で、全体の2・7%を占めています。これは2012年平均労働力調査結果の数字です。この割合は実感として高いのではないかと、一般社団法人日本建設業連合会（日建連）が13年に調べたところによると、0・6%という結果が出ました。この調査は加盟企業1社の建築現場を対象（現場数230）としたもので、こちらの方が実感に近い数字でしょう。もともとガードマ

ンやCADオペレーターなどを含めると1・2%となります。

どちらにしても労働力調査の2・7%とは差がありますが、これは専門工事が元請となっている現場では女性技能労働者がより多く就労しているためと考えられています。

また、日建連が15年11月に協力会社約10社を対象にアンケート調査を行ったところ、CADオペレーターや清掃などの業務を含め、全体の技能労働者の1・9%が女性という結果が出ています。このように、躯体や仕上げ、設備などのほかにその他

の職種を入れても女性技能労働者の割合は2%未満というのが現状です。

建設業の就業者数は1997年の685万人をピークに減少傾向が続き、2016年は492万人でした。日建連の建設業技能労働者数予測によれば、高齢化の進展や若年者の入職数の減少により、2014年から25年までに128万人の技能労働者がいなくなるとされています。日建連は90万人の新規入職者と35万人分の省力化で乗り切るとしています。また、新規入職者90万人のうち最低20万人は女性で補いたいという

のが日建連の意向です。

女性技能労働者の入職促進策

このように女性労働者の入職促進は、現在、建設業の最大課題のひとつとして浮上ってきています。

日建連は昨年7月、国土交通省に対し、国と地方公共団体などが、女性入職者・定着促進策として、4項目の実施要請を行っています（表参照）。

トイレは女性専用として、男性が無断で使用できないよう施錠管理すること、更衣室や休憩室も女性に配慮したものとする。出産・育児への配慮では、休職したことが入札時の技術者評価で不利にならないように配慮すること、そして週休2日モデル工事を拡大し、ワークライフバランスの改善に向けて取り組みを一層強化していくこと、などです。

日建連の国交省への女性活躍のための要望（2016年7月）

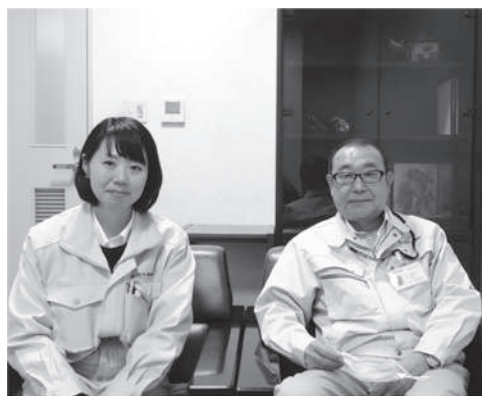
- ① 女性に配慮した仮設トイレの設置の原則化
- ② 女性に配慮した更衣室、休憩所等の設置の原則化
- ③ 出産・育児への配慮
- ④ 長時間労働の改善と週休2日制モデル工事の更なる拡大

女性限定の支援事業を実施

こうした動きに呼応する施策も登場しています。「建設労働者緊急育成支援事業」は、一般財団法人建設業振興基金が厚生労働省からの委託を受けて全国で展開している事業ですが、ここに女性限定のオペレーターコースが登場しました。

この支援事業は、建設業に入職すると必要になる基礎知識や技能の修得、必要な資格を取得してもらうことを目的としています。訓練中の宿泊費に加え、訓練施設までの往復旅費・通学費の本人負担が不要という破格の内容となっています。

現在、集計が終わっている2015年度の全国21拠点の実績は、訓練修了者556名、うち就職者は41



川村富士夫主任講師（右）と吉田温子講師（左）

6名で、修了者の75%が建設産業の企業に入職しました。

一方、訓練修了者のうち、女性は18名で全体の3・2%にとどまっています。圧倒的に男性の訓練生が多いため、女性が参加するには勇気が必要です。そこで登場したのが「女性限定重機オペレーターコース」です。

講習の期間は昨年11月21日（入校式）から同年12月17日（修了式）までの3週間。同コースの実施を受託したのはキャタピラー教習所（株）の東関東教習センター（千葉県柏市十倉^{ふた}2313番地）です。

同教習所は建設機械大手の日本キャタピラーが1993年に開設した教習所で、全国に17の教習所を設けています。建設機械のライセンス



吉田温子講師（車両そばに立つ人）が丁寧に指導、車両系建設機械（解体用）の実技指導風景

取得や技術・安全知識を習得するための支援事業を行っています。

この事業を実施した東関東教習センターは、千葉県柏市にあり、鉄道と高速鉄道の便が良く、東京や埼玉、茨城に近いという地の利があります。教室を7つ備え、月間の受講者は600人から700人、多いときには800人を受け入れることができる設備と講師陣を擁しています。

男性の受講者にも良い刺激

訓練講習は次の7つ。①建設業経理事務士4級特別研修、②小型移動式クレーンの実技・学科試験、③玉掛け技能講習、④車両系建設機械（整地・運搬・積込み用と掘削用）運転、⑤車両系建設機械（解体用）運転、⑥不整地運搬車運転、⑦ローラーの運転業務特別教育。

実はキャタピラー教習所は、2年程前から除雪作業のための小型車両系特別教育を女性限定で実施してきた実績があります。同教習所の川村富士夫主任講師は「こうした経験もあり、もともとフォークリフトの講習では女性の参加者も多かったのですが、順調に講習を進めることができました」と言います。

今回の女性限定重機オペレーターコースの参加者は全国から集まった

6人。6人に1人の講師がつくという恵まれたものとなりました。

男性受講者にも刺激となったようです。「学科は男性も一緒に受講したのですが、6人共に目的意識をもって真面目に講習を受けるので、圧倒されていましたね（笑）」と言います。

一方、女性が圧倒されたこともあったようです。車両系建設機械の実技講習では男性の運転スピードが圧倒的に早いということがありました。実技指導の吉田温子講師（同社教育支援部）は、「女性のほうがスピードに関しては慎重でゆっくり動かししています。男性は思い切りが良く感じます」と言います。

一方、川村主任講師は「女性は丁寧でこまやかですので、現場の運転では女性の方に適性があるのではないか」とも言います。

そして川村主任講師も吉田講師も願いは同じ。「せっかく取得した資格ですから、是非、活用して活躍してほしい。現場で運転に慣れるには一定の時間がかかるでしょうが、この講習がきっかけになって、現場で女性の重機オペレーターがもっと見られるようになることを願っています」と、共に笑顔で期待を述べました。

6人のなでしこが参加し講習を修了

—7区分の資格を取得、少人数の講習が好評—

（一財）建設業振興基金が建設労働者緊急育成支援事業で初めて開いた「女性限定重機オペレーターコース」。このコースには北海道から兵庫県まで全国から6人の女性が参加しました。6人がこのコースの存在を知ったのはパンフレットやホームページ、ハローワーク、など様々。また、口々に、女性限定だから受講したとのことで、女性限定コースの目的は達成されたといえるでしょう。少人数であること、実技講習に女性講師がついたことも好評でした。

受講の動機は「建設業で働いていたから」、「運転が好きで大きな車に乗ってみたかったから」、「現場で玉掛けをするから」、「里山整備に役立てたいから」と実に多様でした。

また、建設業に対しては、きつい、日に焼けるなどと、屋外での厳しい仕事という印象が強いようです。なかには「前職が製造業で男性職場だったが、この仕事につけば女性でもやり通すことができる」と頼もしい言葉も。

女性6人が一様に不安を感じたのは車両系建設機械の運転などで男性のスピードが速いこと。現場で一緒にやれるか不安を感じたようです。これに対して、担当講師から「女性は運転に関して概して慎重ですが、時間の経過と共に運転スピードがアップするので大丈夫」とのお墨付きをいただいたとのこと。

仲良くなった6人、「建設現場で再会したいね！！」と口を揃えて話をしていたのが印象的でした。



建設労働者緊急育成支援事業で初の女性限定コースに参加した6人の女性たち

建設現場などで威力を発揮するAWN

—アクティブリンク社の装着型ロボット

荷役は肉体にかかる負荷の大きい作業。その負荷を軽減して年齢、男女にかかわらず働ける「パワーバリアレス社会」をつくりたいと、2003年に創業されたのがアクティブリンク株式会社。パワーをアシストする同社のロボットとはどのようなものか、レポートします。

少子高齢化が進む日本。労働力不足が顕在化するなか、年齢や性別に左右されずに誰もが思いどおりに元気に働ける「パワーバリアレス社会」をつくりたい、とロボット技術の開発販売に名乗りを上げたのが、アクティブリンク株式会社を起業した藤本弘道社長。松下電器（当時）に勤務していた藤本社長は、社内ベンチャー制度「パナソニック・スピニアップ・ファンド」を活用して、2003年に労働負荷を軽減する機器の開発に乗り出しました。

腰部負担に特化したAWN

同社の事業目的はパワーをアシストするロボットの提供ですが、主力製品はパワーアシストスーツ「AWN-03B」（以下、「AWN」と言います）。これは、腰部負担の軽減に特化したアシストスーツで、装着型ロボットの量産化は世界初。同社ではこのほかにパワーローダーと呼ぶ、人の筋力を増幅する装着型ロボットなども開発しています。



AWN-03Bは体幹の動きに合わせて荷役作業時の腰への負担を軽減する。

AWNは写真に見るように、背中与腰に機器を装着するもので、リュックサックを背負ったような感じ。重量物の持ち上げと歩行運搬に大きな力を発揮します。

その原理を説明すると次のようになります。腰につけた位置センサーが装着した人の姿勢や動きを読み取り、その動きに追従してモーターが作動することで、人の動きを助けるように作動するもので、センサーとモーターを繋いでいるのがコンピューターです。

「腰の角度やどんな姿勢をし、どんな動きをしているかなどをセンサーが読み取り、次の動きを考えて

追従して動きます。AWNは作業の際に使う筋肉をアシストするというよりは、腰の曲げ伸ばしなどの動作を補助してあげるものです」と同社広報担当の福井啓子さんは説明します。具体的に原理を説明すると、物を持ち上げる場合、「使用する人の腰の動きに追従して、ギアが回転し、太腿を引く力と背中から状態を引き上げる力が働くことによって、腰の曲げ伸ばしの際の負担を軽減してくれるものです」と、福井啓子さんは説明を加えます。

そしてそれは電動アシスト自転車に似ているといえます。「電動アシスト自転車は人がペダルをこぐと、その動きを助けてくれますが、自転車から降りて引っぱれば重いだけになってしまいます」という。

AWNを装着した作業者が物を運ぶ場合、持ち上げる、姿勢を保つ、運ぶ、降ろすという動作を行います。この4つの動作はそれぞれ動きが異なるため、本来なら操作のモーターを切り換える必要があります。しかし、AWNにはコンピューターが内蔵されているので、スイッチ操作などは不要です。つまり、作業者は自らの次の動作を考えることなく重量物の持ち上げ、歩行運搬、降ろすという動作をスムーズに行うこと

ができます。つまり、AWNを直感的に操作していることになるわけで、作業効率が高まります。

このように、AWNは作業者の腰部負担を軽減することに特化したアシストスーツで、「たとえば、腕の筋肉の動きをアシストしてくれるものではなく、重量物の繰り返し搬送作業などに適しています。このため、AWNが多く使われているのは建設業界と物流業界です」と福井啓子さんは説明します。

同社ではAWNのほかに、人の筋力を増幅するパワーローダーなども開発していますが、難点はロボットに作業の汎用性を持たせると、装置が大きくなって重量も増え、費用も高くなっていくこと。産業界に受け入れられるためには、今後、こうした面の克服が欠かせません。

なお、装着に要する時間ですが、慣れてしまえば30秒で可能というこ

とですから、着脱に困難はないといつてよいでしょう。

進化を続けるロボット

AWNの重量は材料などに改善を加えて7キログラム弱にまで軽量化されています。「7キロという重量は重いように感じられるかもしれないが、腰が負担を受けとめるので、私が装着して動いてみても、背負ってしまえば、意外と負担は感じません」と福井啓子さんは言います。

バッテリーの稼働時間は8時間。1日の稼働には十分な時間ですが、激しく動く場合には昼休みに充電することがお勤めとのこと。充電に要する時間は40分から90分です。なお、バッテリーの残量度合はランプの色で表示しブザーの警告もあり、突然のバッテリー切れで不測の事態を招かないよう、安全面も考慮されています。



AWN-03Bを持つ福井啓子さん

アシストスーツの開発にあたっては、重量と大きさとの闘いでした。小さいに越したことはありませんが、それでは力の強さやバッテリーを犠牲にしなければなりません。研究の結果が現在の

重量と大きさに結実しました。

現在製造されているAWN-03Bは、これまでの改良を組み込んだ最新型ですが、この型の特徴は防水・防塵機能を高めたことにあります。建設作業では防水性がないと使いにくいという声があり、改善が加えられました。

このように、ユーザーの声を取り入れて、AWNは不断に改善が加えられています。ただ、ユーザーは多岐の業種に分かれているので、費用対効果の面から要望にすべて応えていくことはなかなか難しいのが現状ですが、AWNにみるように、着実に進化を続けています。

現在の検討課題として、AWNに安全帯のハーネスを付けることなどがあげられます。また、体にパットが密着するので、夏には暑さを感じられるので暑熱対策も検討中です。特殊な作業では防爆構造も必要となるので、その検討も進められています。

作業が楽になることを実感

装着して作業した人の感想はどのようなものでしょうか。「以前に比べ作業が楽になった、同じ作業でもより長く作業できるようになった、

長い時間使っても筋肉痛が少なくなった、などの声をいただいております」(福井啓子さん)。ただし、疲労度などは測定が難しく軽減度合を数値化することは難しいとのこと。

さらに、アシストスーツは装着する人がその機械にいかにも熟達しているかというスキルの度合によって使用の効果も異なってきます。アシストスーツの販売代理店やレンタル会社などを通じて装着の仕方や使用方法などを説明しています。

要望や意見など、ユーザーの声を取り入れてこそアシストスーツは進化します。「今後も03Bの普及で建設作業に携わる方の労働負担を軽減し、『パワーバリアレス社会』となれば、ひとりでも多くの方が働けるようになるのでは、と考えています」と、福井啓子さんは同社のアシストスーツの未来を展望しました。

アクティブリンク株式会社

2003年6月、松下電器(当時)の社内ベンチャーにより設立

本社 奈良県奈良市左京6-5-2
資本金 4億7200万円
社長 藤本弘道氏
電話 0742-71-1878

AWN-03『装着体験記』

姿勢の維持、荷物の移動で負担軽減を実感

(株)あめりか屋
山本英夫社長



アクティブリンク社で説明を受ける（左側京建協）

装着に当たっては手伝ってもらいましたが、慣れば簡単にできそうです。重量は7キロということでしたが、背中に密着させると、私はそ

れほど気になりませんでした。

一連の各動作のアシストについてですが、まず持ち上げる、下ろす作業については、慣れていないこともあり、違和感がありました。特に荷物を下ろして、姿勢を立てるときに、体が浮き上がる感じがありました。しかし、姿勢を保つ、荷物を移動するなどの動作では、腰への負担は相当軽減されていると感じました。

用途ですが、同じ姿勢を保ち、大量の荷物を平面移動させる作業には有効でしょう。しかし、足場上の作業は難しいと思われるので、昇り降りする作業でなく、平面的な作業に限って使うなど、2〜3時間同じ作業をするというように工夫すれば有効であると思います。

倉庫や工場の現場、土木のような平面的に広い現場で使い道が多いと思われる。

試着した時に、最初の姿勢の登録



AWN-03の装着体験（装着するのは水野祥司さん）

や、パワーの出る大きさがダイアルで制御されていましたが、その方法がある程度マニュアル化してほしいと思います。

40分〜90分の充電で8時間使用が可能ということですので、十分な能力と思います。

このアシストスーツを長期にわたって使うという場面が無いという場合、1ヵ月、2ヵ月などレンタルした方がよいかもしれません。価格も3年契約で月5万円程度であれば、購入するよりお勧めでしょう。

中腰姿勢の作業に効果を 実感

水野建設(株)
水野祥司専務取締役

初めての装着でしたが、少しばかり慣れが必要でしょう。装着してみると、軽量化が進められているとはいえ、7キログラムあるので、やはり気になりました。

腰部負担の軽減をうたっているように、持ち上げる物が軽くなった、重量物を長時間持ったりできるといったものでないことは実感しました。一方で、中腰姿勢が続く作業

には適していると思われます。意図的に中腰で腰を傷めるような姿勢をとってみると、アシストが効いていることが感じられました。

このように、腰に負担がかかるような姿勢での作業には威力を発揮すると思われます。使う場面を考えての導入が必要と感じました。

コンピュターが内蔵され動作はスムーズですが、アシストの動作は唐突感が無きにしもあらずと感じましたので、この面の改善をお願いしたいと思います。

8時間使用に40分から90分という充電時間は評価できます。

装着した機械が当たることにより、細かい仕上げを傷つけないかが懸念されます。また、モーターが組み込まれているので、爆発の危険がある現場では防爆構造の仕様が求められるでしょう。作業現場によっては、ハーネスの装備も必要になると思います。こうした点の改善も必要と感じました。

購入も可能ですが、レンタルでは月5万円ということですから、今後の機械の進化を考えると、レンタルがお勧めでないか、というのが私の感想です。

若手には明確な役割を与え やる気もたせ離職を回避

―座学・グループ討議一体型で成長の気づきを与える―

京建協は昨年11月24日、下京区のキャンパスプラザ京都で、会員企業15社43名の若手社員を集め、「新入・若手社員フォローアップ研修」を実施。講師は京都サンダーの田辺直子氏。入社してから振り返りを行い、企業の一員としての自覚を促し、将来に向けて意識的にキャリア形成をしてもらうことがこの研修の目的です。研修を終えた田辺氏は、若手には明確な役割を与えることで活力が生まれ、早期離職回避にも効果的と述べました。



田辺直子講師
(京都サンダー)



絹川雅則
労務経営委員長

今回のフォローアップ研修の目的は、若手社員が抱える不安を解消し、入社から現在までの振り返りを行い、会社の一員としての自覚を促すことにあります。研修は座学とグループ討議を組み合わせて職業人としての成長の気づきを与えるように組まれています。講師はコンサルティング業務などを行っている京都サンダー株式会社田辺直子氏（キャリアアカウンセラー）。

研修会ではまず絹川雅則労務経営委員長が「皆さんは将来の企業を支える人材。研修で学習と交流を深めてほしい」と挨拶しました。次ペー



グループワークで思いを深める



グループ討議を終え全体ミーティングで発表

ジのプログラムにあるように、当日の10時から17時まで、入社してから今日までを振り返りこれからの目標設定に至るまで、密度の濃い6時間の研修となりました。

振り返りからキャリア形成まで

研修でまず行ったのは入社から現在までの経験の振り返り。現在どのようなことに迷いがあるのか、ヒアリングシートに各自が書き込むことで、等身大の自分を見つめることから始まりました。次いで、社会人の心構えとして、ITリテラシーや個人情報・入札状況などの守秘義務、現場での円滑なコミュニケーションなどについて学びました。

午後はグループディスカッション

グループはその内容を全体ミーティングで発表することで、情報を共有しました。

15分の休憩の後、現場における安全管理についての講義。実際に起こった災害事例や自分のヒヤリ・ハット体験を振り返ってもらい、グループで災害の原因を見つけ、今後の防止対策と注意事項をディスカッション形式で考えました。

そしていよいよキャリアプランシートの作成となります。このシートは「入社1年目」「同2年目」「同3年目」そして「その先」の自らのキャリアを考えてもらい、成長のために、どのようなことが必要か、考えるものです。自らのキャリアを振り返って、今後の目標を設定し意識

と全体ミーティング。ヒアリングシートに記入された悩みの上位2つ（人間関係の築き方、仕事の進め方と優先順位）と「いかに若者の入職を増やすか」をグループ討議。若手目線で同世代の心はどう訴えたら良いかを考え、その内容を模造紙にまとめました。これは情報を整理する能力を育成する効果もあります。各

的にこれからの自らのキャリア形成を考えました。

入社1年目は自分の仕事内容を理解し、2年目には自ら指示を出せるようになり、3年目には上司に提案できるようになり、4年目以降は後輩に指示できるようになる、など自らの目標を記入します。

キャリアシートの作成は記入して終わりではなく、会社を持ち帰り上司や先輩などの指導者に提出し、共に考える話すきっかけづくりとなるものです。指導者は部下・後輩に寄り



講師（前列右端）を交え研修を終えての記念撮影

添ってキャリアプランニングをすることとなり、成長を後押しするツールにもなります。

明確に役割を与える

研修を終えた田辺直子先生に感想をたずねると、次のように述べられました。

参加者全体に3つの傾向が見られました。まず、役割を明確に与えられると、積極性が出てくるということです。受け身だった研修生も研修で役割を与えると、役割以上のこともするようになりました。職場においても漠然とでなく、具体的に役割を与えることが求められます。

2つ目に仕事の手順を細かくシミュレートする力がまだ弱いと感じました。アイデアは出るのですが、経験が少なく具体的に考えることや進め方をうまく考えられない場面が多くありました。職場では業務の手順をシミュレートする習慣をつけることなどが必要と思われます。

3つ目に現代の若者はゲームやアニメなど、完結した造込みの世界で育ってきましたので、建設業が社会で果たす役割、あるいはその人の会社における位置づけなどがトータルに分かるように、物語仕立てで伝えるようにすると、より理解しやすくなるように思います。

新入・若手社員フォローアップ研修プログラム

タイムスケジュール	内容と目的	方 法
10:00 (適宜休憩10分)	1. 入社から今までの経験の整理（ヒアリングシート記入） 2. 社会人・組織で働く時に求められること ・社会人として仕事をする為に必要な責任感、心構えを振り返る。 3. 年代の違う人とのコミュニケーションについて（振り返り） 4. 情報の守秘義務 ・ITリテラシー・社内情報の守秘義務	講義 田辺直子 セルフワーク
12:00	5. 「会社が守ってくれる」ではなく、「自分が造る」意識へ	
12:00～13:00	お昼休憩	
13:00	6. グループディスカッションと全体ミーティング ① 冒頭に記入したヒアリングシートから、悩み（これからぶつかるであろう事）トップ3を選ぶ。その後、トップ3に対して「どう向き合ったらよいのか？」をディスカッションし、自分達なりの対策と方法をまとめる。 ② 各グループから出された答えに対して、新人の目線に、経営者、指導者側の視点を加えて解説することで、双方の価値観や見方の違いを認識する。 ③ メンバーから出た声を情報として出し、整理し、誰にでもわかるように模造紙に記入する（作業を通し、工事過程の記録と、情報整理の習得にもつなげる） (参考) 新人研修時の不安項目トップ4 1. 仕事についていけないかどうか 2. 人間関係が築けるか 3. 会社に自分があうかどうか 4. プライベートとのバランスのとり方	講義 ファシリテーター 田辺直子 グループワーク (模造紙、ペン使用) 情報整理 全体ワーク チーム発表
14:15		
14:15～14:30	休 憩	
14:30	7. 現場での安全衛生管理 ・安全管理の復習 ・実際に起きた事故ケースを事例に出し、原因と対策をグループディスカッションし、注意点を共有し、安全への意識を再認識する。	講義 ファシリテーター 田辺直子 グループワーク
15:30		
15:30～15:45	休 憩	
15:45	8. 「これからの目標設定」～キャリアマップ作成～ ・キャリアとスキル、価値観の棚卸 ・目標設定マップを作成する（建築系、土木系） ① 自分ができるようになったこと（振り返り） ② 出来るようになりたいこと（資格取得等） ③ ②の目標時期設定 ④ ③に向けて「やらなければならないこと」の整理と状況確認	セルフワーク
17:00		

なるように思います。若者は自分の役割が不明確な状況に置かれると、やる気を失い、それは早期離職につながります。研修で

キャリアプランシートを作成しましたので、このツールを活用して若者の特徴や心情を理解しながら指導をお願いしたいと思います。

交通安全守る道路材料の適切配合 人と人のつながりが向上心を生む

——古田美知留さん、上方奈々さん
(株)田中工務店／舞鶴市字倉谷



古田美知留さん



上方奈々さん

舞鶴の老舗建設会社・(株)田中工務店(柿野剛清社長)。畿北エリアのランドマークや鉄道のインフラ整備などに携わり、地元から高い信頼を得ています。同社試験室勤務の紅二点^{かみかたな}が、主任の古田美知留^{みちる}さん(39歳)と上方奈々^{なな}さん(25歳)。試験室の業務は、舗装アスファルトの配合設計やその品質管理、またグループ会社の田中プラント(株)がつくる製品の試験全般を行い、さらに道路工事の土質試験・原位置試験などの仕事をしています。お二人は、共に高校卒業後、担任の

先生の勧めで舞鶴の有力企業である同社に就職しました。

建設業の魅力は人との出会い 濃密な人間関係で現場に活気

この試験室の仕事、奥が深いというのは古田さんです。「当初は分からないことばかりでした。アスファルトなどの試験業務は狭いようで、実はとても奥が深くて、極めることは大変です」と、入社21年目の古田さんは言います。それに加えて、ここに人間関係が絡んできます。「現場や役人の方から説明を求められることがあるので、その説得の方法も考えなければなりません。規則がこうなっています、など相手に伝わるように説明しなければなりません。説得力が求められるの

で、日々勉強して新しい知識を仕入れ、相手が納得のいくまで説明できなければ、現場に立つことはできません」と、ベテランならではの発言。こうした奥の深い仕事なので、古田さんが仕事の面白みをわかってきたのはこの10年と言います。

一方、入社5年目の上方さんは、「現場に出て道路の整備が進んでいく達成感などは感じています。先輩の古田さんが感じているような、仕事の真の面白さはまだ感じていないと思います」と言います。古田さんは、先輩に「もうちょつとすると面白くなるよ」とやさしく話しかけました。

後輩から見ても古田さんほどのように映っているのか尋ねると、「やさしさがすごいんです。聞いたことは必ず教えて



社屋の前で、古田美知留さん(右)と上方奈々さん(左)



碎石の篩分け検査をする古田さん(左)と上方さん(右)

くれます。きちんと注意もしてくれるので、勉強にもなります。できるだけ先輩に近づいていきたい」と感謝の思いを伝えます。

一方、先輩から見た上方さんは、「私は早合点で突っ走りがちなのですが、上方さんは私のそういう性格を呑み込んで接してくれるので、本当に仕事がしやすいです」と先輩であり上司の古田さんは表現します。

建設業界に入って、21年目と5年目のお二人。それぞれが感じている建設業の魅力を尋ねると、共に「人とのつながり」と答えてくれました。

「建設の仕事はひとりで成し遂げることはできません。その点、他の業界に比べ、人と人との濃密なつながりを感じます。現場に出ると、一度に覚えきれない程、人に出会うことがあります。アスファルトの混合物を見つめることが私たちの仕事ですが、人間は自分の思うとおりににはなりません。そうすると、何とか説得しよう、といういろいろ考えるわけでも楽しいです」と古田さんは笑いながら答えました。

一方、上方さんも「現場に行くと、いろんな会社の

人と出会い、話し合うことになるので、それがとても面白い」とのこと。

お二人とも異口同音に、建設業の男性はやさしいと言います。「現場に車で到着すると、男性がすぐに来て、重い荷物を運んでくれます」と上方さんは即座に笑いながら答えました。

古田さんも「重い荷物は男性が雰囲気を読んで運んでくれますし、中には手伝いをしてくれる、若い男性をつけてくれることもあります。男女で力は違いますが、そうした違いをお互いに協力し合ってカバーしていますので、女性だからと意識したことはありません」と言います。

二人を鍛えたのは 屋外での仕事の経験

ベテランの古田さんには失敗談もあります。入社2、3年目のこと、手動式の機械の扱いについて注意されていたにもかかわらず、壊してしまいました。怖くて室長とは3日ほど、話ができなかった程だと言います。「でもそれよりも自分が情けない思いで、その後は仕事への姿勢が確実に変わりました。どうやって、その損失を取り戻すか、真剣に考えました」。これなら、田中工務店は損失を取り戻して余りあるものがあったのではないのでしょうか。

印象に残るのは、5年程前の3月の福知山における築堤の仕事。雪が降り足下



配合テストをする古田さん



上方さん

の悪い極寒の中、仕事をやり遂げ、その後は「ちよつとくらい寒い現場は平気になりました。過酷な現場をクリアすればするほど、強くなるということを実感しています」とはお二人の思い。

そして、仕事は毎日が「平穩であってくれることが何より」と古田さんは続けます。「配合試験などは、後から不具合が出てきてはならないようにするための仕事です。工事後に、何も起こらないことが、私たちにとっては何よりのご褒美です。うまくいって当たり前の世界ですから、仕事で大成したという経験も思いもありません。毎日、注意深くかつ淡々と仕事に臨むようにしています」と、仕事へのスタンスを語ってくれました。

そんなお二人の休日は、古田さんはドライブ。ドライブをしていても、道路の状況が気になるそうです。上方さんは友人との会食やおしゃべり、それに週末は家事と大忙しです。

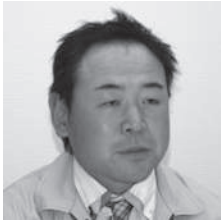
街を歩いて時代のテイストを知る 感性を高めて顧客の要望を実現

——新葉貴司さん、上西幹由さん

水野建設(株)／京都市下京区西七条市部町



新葉貴司さん



上西幹由さん

水野建設(株)（水野善雄社長）の新葉貴司さん（41歳）と上西幹由（44歳）さんは好対照のおふたりです。新葉さんは専門学校から直接に水野建設に入社。これに対し上西さんは様々な職業を経て水野建設に入社しました。ただし、木造建築会社に勤務していた経験があり、二級建築士の資格を持っています。

新葉さんは水野建設で20年の経験を持ち、施主や設計事務所、職人さんからも信頼され頼りにされる存在。一方、上西さんは入社3年目。現在、知識の習得に励んでいます。上西さんが入職して感じた建設業の魅力は、「幅の広さ」。「私のように中年になっても受け入れてくれる幅の広さがあり、再スタートが切りやすい」というメリットがあります。この仕事の面白さも徐々にわかってきて、現在では65歳、70歳とこの会社で働いていたいと思うようになりました」と言います。

仕事を通じた触れ合いが喜び 所長の体験を経て成長を実感

入社以来、着々と力をつけてきた新葉さん。「頑張ったことが形になる」ことに建設業の魅力を感じてきました。そし

て同社の強みとして、「木造からRC造、S造、SRC造と様々な構造物を納まりよく造り上げるノウハウを持っていること」を挙げました。

そして今では「いろいろな人と出会えることに魅力を感じるようになってきました」と言います。施主や設計事務所以外に職人さんとの触れ合いもあり、これは建設業でしか味わえない醍醐味であり、喜びと言います。

上西さんも「弊社には380年近い歴史がありますが、技術力と提案力に対する信頼があったからこそ、継続的に発注をいただいているわけで、お客さま満足度を重視している会社と感じています」と言い、同社で働ける喜びを語ります。



インタビューに答えるお二人。新葉さん（左）と上西さん（右）



会社の前で打合せ。新葉さん（左）と上西さん（右）

て、「経験の引出し」を多く持つように努力していると付け加えました。引出しを持つことの重要性に気づいたのには、次のようなことがありました。以前、施主からの直接の依頼で、店のイメージを告げられイメージに沿って工事を完了。ところ

社長との距離が近いのも働きやすさの大きな要因です。新葉さんは「私たちが提案してみると実現することが多く、これがモチベーションにつながります」と言います。上西さんも「同じ釜の飯を食べて一緒に仕事をしようということが、遅れて入社した私にも感じられます。とても柔軟な会社です」と言います。

新葉さんは入社以来、数多くの施工現場に従事してきました。なかでも印象に残っているのは、何といっても26歳のときの初めての現場所長の経験だと言います。「マンシヨンの新築工事だったので、工程管理、コスト管理、品質管理、安全管理までやり通したときは、自分でも成長したかな、と感じました」。加え

が、イメージと違うということで、工事の修正に至った苦い経験があるからです。新葉さんは建設物だけでなく、ファッション、グルメ、自動車その他の様々なジャンルのものに目を光らせていて、それを吸収するようにしていると言います。「時代のテイストというものを吸収しておかないと、施主様のイメージを実現することはできません」と言います。

入社3年目の上西さんの印象に残る仕事はガレージのアスファルト舗装。目的がはっきりしている土木のような仕事が好きとのこと。「まだ新人の部類ですが、仕事上で失敗、成功の体験はないのですが、自分で最善を尽くしたと納得すれば、それは成功したのだととらえています。もっともまだ見習いの段階ですから先輩がいるわけで、結果が失敗だったという経験はありませんが（笑）」、と上西さん。

街歩きで時代のテイスト知る 健康管理はジョギングで

「様々な分野の人とつながっていきるのが好き」という新葉さんはこれからも工事を通して、いろいろな世界と触れ合っていくことが抱負。「改修ではお客さまと直接つながることができ、視野が広がっていくのを感じます。これからの時代のテイストを吸収して、お客さまが喜んでもらえるよう提案していきたい」

と言います。

上西さんは、「何と言っても大事なことは健康です。70歳まで働けるように体を大切にしていって長く勤めていきたいですね。その際、大事なことは体をいたわりながら、持てる力の百パーセントをどう出していくかということだと思っています。というのも現場の仕事はチームワークが大事だということを実感しているからです。体力が低下することで工事の進捗や品質に影響を与えることは避けなければならないからです」と言います。

そのような上西さんに對し、新葉さんは「上西さんを見ると、頑張っていることに感心します。社会経験の豊富さを感じますし、触れ合うことで勉強になります」と、互いに評価し合っていることが、わかります。

新葉さんは40歳を超え、新しいものを吸収しにくくなる年と自ら戒め、感性を豊かにするため、多種多様なものを見る努力を欠かしません。上西さんは休日のジョギングで体調の万全を図っています。



現場を検査する上西さん



現場を確認する新葉さん

柳亭金車の

現場のいい話

ちよつと

その3

生の現場見学——安全に完結なし

ま

だ見学初期の頃、「君、現場視察に行くのならね——」
「部長、視察ではありません。見学をさせてください」

「いいよ、◎◎と☆☆を廻ってくれないか」

実はモデル現場の見学はあまりしたくない。なぜなら、見学者がたくさん押し寄せるために所長さんの応対が実に手慣れていて、そつがない。無駄な言葉も刈り取られ、簡潔明瞭な説明は噺家でも舌を巻くほど巧くなる。まさにバスガイドの域に達してしまう。しかし、通り一遍の見学になって、身に付かぬことが多い。一見すると怖そうだが、暖かい人間味のある作業員さんたちとの会話が欠けるのが原因かもしれない。製造業のラインなどは話しかけられる雰囲気ではない。ここが他業種とは違うところである。

「有り難うございますが、どうもモデル現場は……」

「いや、そうじゃないんだよ。恥ずかしいが2週間ほどの間に起きた事故現場なんだ。腹起こしの上を歩いていて墜落したのと、足場解体で安全ネットを外す際に落ちたんだ。幸い、大事には至らなかったが、労災にはなった。素人の目で見た正直な感想が聞きたいんだよ」

「事故の現場を見ろ」と言われたのは初めてでした。その後、何百回と現場を見学させてもらいましたが、同じ言葉を聞きません。

倒壊とか座屈の現場ではないので、2週間も経てばその痕跡ありません。労働基準監督署の監督官ならいざ知らず、所詮、噺家の力量では意見具申は無理です。



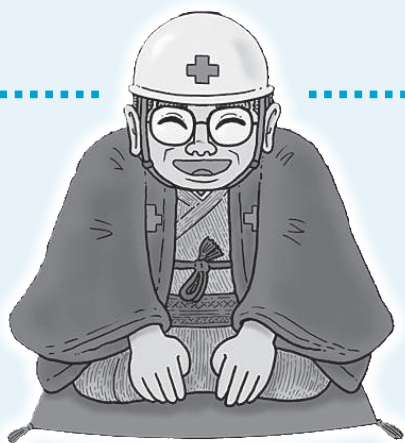
さらに、部長さんは噺家が行くことも現場には知らせませんでした。恐縮しかった所長さんの事故説明を戴いて帰りました。

これこそ、「生の現場見学」です。それ以来、図々しくも「安全の先生」として、奇問・愚問の教導を仰いでおります。

ある年の年賀状に、「昨年は良かった。しかし、この反動が怖い」。勝って兜の緒を締めよ、治にいて乱を忘れず、安全に完結はありません。

退職なされた「安全の先生」は、現在、名古屋で悠々自適の生活です。

『一年の計は年始にあり。ゼロ災の計こそ年始にあり』



全国の建設会社や業界団体で講師を務め『安全落語』を披露する柳亭金車が、ゼロ災を説く——。

わたしの

いきつけのお店

西洋割烹たかはし

お箸で召し上がる
お気軽な“和”フレンチ



西洋割烹たかはし
左京区岩倉花園町247-3 良宮ビル1F
☎075-711-6088
駐車場あり（共用）。
<http://seiyo-kappo.com>

今回、いきつけのイチオシのお店を紹介していただいたのは山本英夫（あめりか屋社長）。結婚記念日には夫婦で必ず訪れているお店とのこと。お店は左京区岩倉の閑静な住宅街

にある「西洋割烹たかはし」。オーナーシェフの高橋宏彰さんは30年の経歴をもつ料理人。大原の実家でもれた新鮮野菜や旬の食材を用い、和の食材にフレンチの技法を、フレン

チの食材に和の技法を、と和洋の伝統技に基づきながら独創性に溢れる料理を生み出しています。お店は「お箸で召し上がるお気軽な“和”フレンチ」をうたっています。



カウンターでつづぐ山本英夫様

● 推薦人 ●

山本英夫さん（あめりか屋社長）

結婚記念日には、必ず妻とこのお店で結婚を祝い合っています。料理がおいしいのはもちろんですが、シェフの心くばりでとても良いタイミングでお料理が出てくるので、会話ははずみ、心地よい空間でくつろいだ時を過ごすことができます。パンやデザートも高橋シェフご自身がつくっておられ、とてもおいしくて、私も妻もヤミツキになっています。



左上：プロシュット（パルマ産生ハム）と自家製千枚漬けのサラダ（1月のメニューから）
右上：ホタルイカと山ウドのバエリア風—自家製の落味噌添え（3月のメニューから）
右下：焼き夏野菜の冷製 鰯の煮凝りとタブナード添え（8月のメニューから）



右下：焼き夏野菜の冷製 鰯の煮凝りとタブナード添え（8月のメニューから）

こだわりの食材と確かな技術に裏づけられた料理は舌の肥えた京都人をうならせます。

夜のメニューは月替わりのおまかせコースのみとなりますが、魚と肉のダブルのメインで価格は税込3800円と、割安感あり。3名から予約を受けつける平日のランチも好評。

和のフレンチというと、若い人には物足りないのではないかと、考えられがちですが、「幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう工夫しております。コースには毎月必ずご飯もの、パスタものなど、おなかも満足していただけるよう、メニューも豊富にしておりますので、食べ盛りの方にも、満足していただけると思います。ご家族でのおいでをお待ちしております」、とのこと。

店内は落ち着いた照明で、一枚板のカウンターが印象的。カウンター6席とお座敷14席のため、予約が勧め。

（定休日 日曜日）
（営業時間 17時30分～22時）

編集後記

●本冊子の取材に当たり、アクティブリンク(株)に訪問しパワーアシストスーツの試着を行いました。慣れないせいか、若干の違和感があるものの重量物の保持は楽になります。短時間の使用でしたが、一日中使えばどうなのか興味を持っております。——(Y.M)

●新しい委員会組織になって1年、皆様お疲れ様でした。広報活動の在り方を考えるいい機会だと思います。次年度もよりよい委員会になりますように。——(N.Y)

●私たち協会が今、最も声を大にして主張していることは、これから10年先の建設業界のあり方です。京都府南部では、各市町村に1社以上の建設業者がいましたが、すべて廃業しゼロとなった地区もあります。後継者問題や若年者の雇用等、企業が存続していくための壁は厚く高くなる一方であり、若者にもっと建設業の魅力をアピールしなくてはなりません。こうした現状に国がさらに危機感を持って、一刻も早く対策

を講じねばならないのももちろんですが、地域の若者へ働きかけるのは、やはり私たち地域の企業です。

広報誌を通じて若者へ建設業の魅力を発信するにあたり、世代間の価値観の違いは30年程前と比べると、月とスッポン程に違うことを感じます。その中でいかに違いを超えて魅力を伝えられるのか。

試行錯誤しつつ完成したこの266号でも、取材を受けて下さった熱い仕事人たちの声を発信しております。

オープンフォーラムが無事に発行できることに感謝を申し上げますと共に、一会社、一個人としても建設業の発展に微力ながら努めて参る所存です。——(T.M)

●とうとう三月を迎え、桃が咲き桜が芽吹き、ゆっくり着実に寒さが遠のいていくかと思いきや、急な冷え込みで四苦八苦。誰もが待ち焦がれている、うららかな温もり溢れる春の訪れはいつになるのやら…。正に➤です。——(事務局)

第18回

小学生 建築デザイン展

最優秀賞



濱田みやこ (宮津小学校1年)



松森 美咲 (加悦小学校2年)



加藤 縁 (三河内小学校3年)

「あたら
いいな
みんなが笑顔に
なれる家」



四宮 大河 (岩滝小学校4年)



濱田たまき (宮津小学校5年)



荻野 彩花 (岩滝小学校6年)

facebook で活躍中!

「けんたま」

ぼく、「けんたま」
建設業の卵だから
「けんたま」って
呼ばれてるんだ!
よろしくね☆☆



オープン・フォーラム NO.266

一般社団法人京都府建設業協会広報誌

- 発行日 2017年3月15日
- 発行所 一般社団法人 京都府建設業協会
〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入
tel.075-231-4161 (代)
- 発行人 一般社団法人 京都府建設業協会 総務広報委員会